

# 鉄道の維持・存続を考える



通学の高校生が降り立つ朝の芦別駅。

## はじめに

北海道旅客鉄道株式会社（JR北海道）は、発足から30年が経過しましたが、この間、高速道路・高規格道路の整備や人口減少、少子化に伴う学校の統廃合など社会構造の変化と、低金利・ゼロ金利政策により国鉄改革のスキームである経営安定基金の運用益の大幅な目減りなど、JR北海道を取り巻く環境が大きく変化してきました。

このような中、JR北海道は平成28年11月18日に鉄道を持続的に運営するための方策や地域にとってより効率的で利便性の高い交通サービスのあり方など、それぞれの地域に適した「持続可能な交通体系のあり方」について、今後、地域と相談していきたいとし、「当社単独で持続可能な線区」と「当社単独で維持することが困難な線区」を公表したところです。

## JR北海道が公表した「単独では維持することが困難な線区」

【1】鉄道よりも他の交通手段が適し、利便性・効率性の向上も期待できると考えられることから、バス等への転換を相談したいと発表した3線区。

線名・区間	営業キロ	1列車平均乗車数
札沼線 北海道医療大学～新十津川	47.6 km	7人
根室線 富良野～新得	81.7 km	11人
留萌線 深川～留萌	50.1 km	11人

※1列車平均乗車数は平成27年度

【2】特急列車の運行や観光路線となっている線区もあるが、輸送密度が2,000人未満であり、橋りょうやトンネルなどの老朽更新も含め「安全な鉄道サービス」を持続的に維持するための費用を確保することが困難として、鉄道を維持する仕組み4点について自治体に相談したいと発表した8線区。

### ■相談したい4点のポイント

- ①設備見直しやスリム化、ご利用の少ない駅の廃止や列車の見直しによる経費節減
- ②運賃値上げ（全道または線区ごと）により、利用客に応分の負担を求める方法
- ③沿線の皆様に日常的に鉄道をご利用いただく利用促進策
- ④運行会社と鉄道施設等を保有する会社とに分ける上下分離方式

線名・区間	営業キロ	1列車平均乗車数
宗谷線 名寄～稚内	183.2 km	25人
根室線 釧路～根室	135.4 km	26人
根室線 滝川～富良野	54.6 km	23人
室蘭線 沼ノ端～岩見沢	67.0 km	32人
釧網線 東釧路～網走	166.2 km	34人
日高線 苫小牧～鶴川	30.5 km	29人
石北線 新旭川～網走	234.0 km	51人
富良野線 富良野～旭川	54.8 km	49人

※1本市は輸送密度が200人以上2,000人未満の線区の根室線に該当

※2輸送密度＝営業キロ1km当たりの1日平均輸送人員

【3】既に協議会等において「持続可能な交通体系のあり方」等について話し合いを始めていると発表した2線区。

線名・区間	営業キロ	1列車平均乗車数
石勝線 新夕張～夕張	16.1 km	7人
日高線 鶴川～様似	116.0 km	13人

# 関係機関と連携、取り組み強化へ

今回のJR北海道が発表した事業範囲の見直しは、利用者や住民の皆さんの生活に大きな影響を及ぼす可能性があることから、市としては根室線沿線自治体で構成する「根室本線対策協議会」において、北海道とも連携を図りながら、鉄道の維持・存続に向けた協議や取り組みを強化することとしています。

## ◆根室本線対策協議会 平成29年度事業計画

### ■検討・協議

沿線市町村、北海道、JR北海道に

### ■調査・研究

鉄道の利用促進策について、観光利



識醸成策について検討します。  
 による「3者事務レベル検討会議」⇒写真⇒を設置し、鉄道の維持・存続に向けた線区の経費削減策、利用促進策、住民意

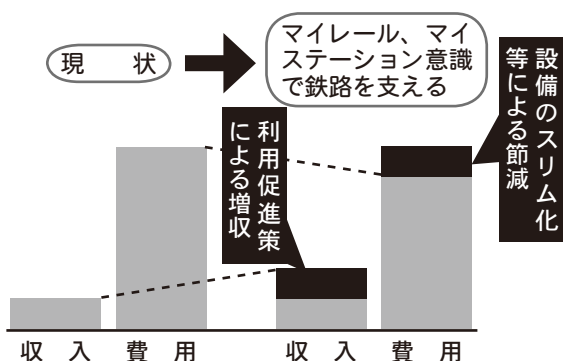
## 根室本線対策協議会

滝川市、赤平市、芦別市、富良野市、南富良野町、新得町、占冠村

### 3者事務レベル検討会議による主な検討内容

- ①営業損益の調査分析によるコスト圧縮に向けた経費節減策
- ②日常的な利用や観光列車・企画列車運行による利用促進策
- ③マイレール、マイステーションに向けた住民の意識醸成策

※マイレール、マイステーションとは 住民または利用者自らが地域の鉄道を守り育てていくという意識



国に対しては、JR北海道が現状の経営安定化基金による支援スキームでは対応できなくなっていることから、JR北海道に対する支援の抜本的な見直しとともに、老朽化した施設の保全・更新や災害対応、貨物列車の運行における負担の軽減、増収策への支援について要請します。⇒写真⇒。

### ■要請



車化により再生した千葉県いすみ鉄道を視察し⇒写真下⇒、地域住民自ら鉄道を守るための活動を調査するほか、鉄道の維持・存続に向けた鉄道フォーラムを開催し、住民意識の醸成を図ります。⇒写真上⇒。

## ご意見・ご要望をお寄せください

芦別市において鉄路は、通勤・通学、通院等、住民生活の足としてなくてはならないものと考えています。

その一方で、昭和62年のJR北海道発足後30年が経過する中で、北海道の人口が全国を上回るスピードで減少しているほか、老朽化した鉄道土木構造物等の更新が必要になるなど、同社の経営環境も厳しさを増しています。

このような中、市としては、鉄道の維持・存続に向けて、関係機関と連携を図りながら利用促進策、意識醸成策について検討を進めていきますので、本件に関してご意見、ご要望がありましたら、企画政策課まちづくり推進係までお寄せください。

●まちづくり推進係

メール = kikaku@city.ashibetsu.hokkaido.jp  
 電話 = 22-2111      ファクシミリ = 22-9696